

InDesignドキュメントの Microsoft Officeデータ化検証

Acrobat Pro DCには、PDFをOfficeデータへ変換する機能があります。
InDesignドキュメントから書き出したPDFを、
WordやPowerPointへコンバートし、それらが活用可能か検証しました。

■Acrobat Pro DCとは

私たちが書籍の編集業務を進めるうえで、日頃から使用しているPDFデータ。特に出版業界では欠くことのできない存在になっていて、印刷用の製版データとしても多く利用されています。

PDFを取り扱うための主なアプリケーションが、Acrobat Reader DCとAcrobat Pro DCの2つです。Acrobat Reader DCはPDFの表示、印刷、注釈の追加が可能で、無償でダウンロードでき、ほとんどのPCにプリインストールされています。

対してAcrobat Pro DCは、PDFの編集、加工を行うためのアプリケーションです。最新のバージョンには、文書比較機能やOCRなどさまざまな機能が搭載されていますが、なかでも一番注目されるのは、PDFをWordやExcel、PowerPointといったOffice形式のデータへ変換する機能です。

■PDFからOfficeデータへの変換

PDFにしるOfficeアプリケーションにしる、データの内部構造はXMLで記述されています。XMLとは文章の見た目や構造を記述するためのマークアップ言語です。これで記述されていることで、PDFとOfficeアプリケーション間のデータのやり取りが可能となりました。以前のOfficeデータの拡張子は「.doc」や「.xls」「.ppt」でしたが、現在はすべての末尾に「x」が付与され、「.docx」「.xlsx」「.pptx」となりました。この「x」がXMLで記述されていることを意味しています。Office2007以降からこの形式になっています。

データのやり取りができるようになったとはいえ、InDesignなどAdobeのグラフィックソフトで複雑にデザイン・レイアウトされたデータを完全に再現することは困難です。データの状態によっては変換した際に

紙面が大きく崩れてしまうこともあります。

裏面に、いくつかのジャンルの書籍について、InDesignドキュメントから書き出したPDFをOfficeデータへ変換した結果を掲げています。

紙面構成によってWord、PowerPointそれぞれの再現度は変わりますが、どちらに変換するかは、変換後の使用目的に応じて選ばれると良いと思われます。なおExcelへの変換も可能ですが、あくまで表計算ソフトであるため、きれいに再現できるのは表組みに限られ、それ以外はアプリの特性上表現ができません。そのため、今回の検証対象からは除いています。

■OfficeからInDesignへの再コンバート

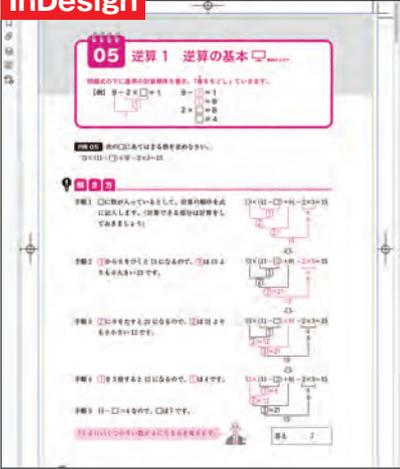
しかしながら、InDesignドキュメントからコンバートしたOfficeデータを、再度InDesignに戻すことは不可能です。InDesignにそういった変換を自動で行う機能はなく、そもそも段落スタイルやオブジェクトの位置情報といった、元のInDesignデータが持っていた紙面情報の多くは、コンバートの際に失われてしまっています。それらを正確に復元することは、専門業者でなければ難しいでしょう。

したがってPDFから変換、編集したOfficeデータからあらためて書籍を制作する場合、それらはあくまでも原稿として取り扱うこととなりますが、それでも作業内容によっては編集側、制作側双方にとって、大きな省力化に繋がる可能性があります。

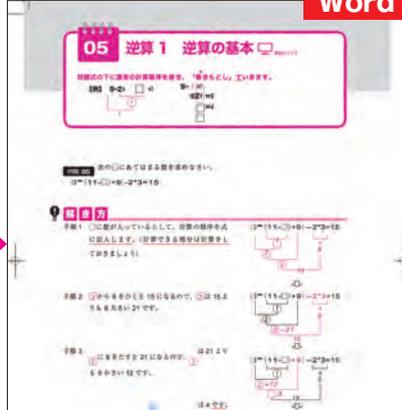
一旦書籍データとして完成したInDesignドキュメントを、再び原稿データとして活用するために、誰もが容易に編集が可能なOfficeデータにするという目的ならば、Acrobat Pro DCのこの機能は十分利用価値があると言えます。

InDesignからOfficeへの変換例

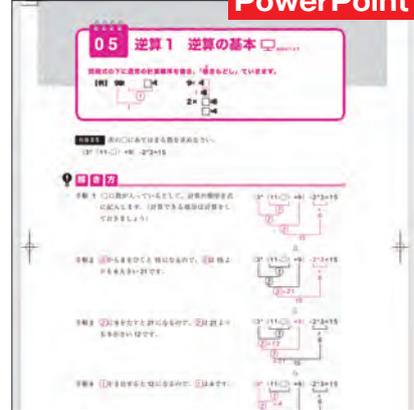
InDesign



Word



PowerPoint



学参書籍

Wordの方が崩れが大きい。このような誌面の場合、テキストや画像などのオブジェクト配置の自由度が高いPowerPointに変換したほうが見た目の状態は良いが、編集のしやすさはWordの方が上。ただし数式についてはどちらも見た目だけ再現されている状態。

InDesign



Word



PowerPoint



縦組み実用書

見た目はWordの方が大きく崩れている。このように複数ページに渡ってテキストが流れる書籍を変換した場合、Wordであれば複数ページに流れるが、PowerPointではページ単位でテキストが切れてしまうため、その後の編集作業の際に使い勝手が悪い。

InDesign



Word



PowerPoint



旅行ガイド

段組を使って複雑にレイアウトされている紙面はPowerPointの再現性が高い。ただし、テキストがブロック毎に分断されている。利用用途によってはWordのほうが使いやすい。なお、写真を多用する書籍はデータが大きくなり、Officeでは操作性が落ちる（動きが遅い）。